

令和2年 第1回 市議会定例会

市長所信表明(要旨)

蕪崎市

本日ここに、令和2年第1回市議会定例会の開会にあたり、提出いたしました案件の概要説明に先立ち、私の市政を担当するにあたりましての所信と施策の基本的な考え方について申し上げ、議員各位並びに市民の皆様の深いご理解と絶大なご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

国内で拡がりを見せております、新型コロナウイルスにつきましては、感染経路が不明確な患者や子どもから高齢者まで幅広い年齢層が感染する等、日を追うごとに患者が増え、本市といたしましても、感染防止のため手洗いや咳エチケット、人混みを避ける等の対策を励行いただくよう啓発に努めております。

また、今後の拡大防止のため、全幹部職員による対策会議を開催し、情報の共有や対応策を協議した結果、当面の間、市主催の催し物等については、自粛することといたしました。

市民の皆様には、大変ご迷惑をおかけいたしますが、安全面を第一に考えての判断でありますので、ご理解をお願い申し上げます。

市政におきましては、自然災害等はもとより、「常に備えておく」ことが重要であり、「もしも」を考え一歩先を見据えたまちづくりが未来へつなぐと確信し、令和2年度におきましても、第7次総合計画で目指す将来像「すべての人が輝き幸せを創造するふるさと いらさき」の実現に向け、まちづくりを進めてまいります。

さて、いよいよ本年7月には、東京オリンピック・パラリンピックが開幕いたします。

県内の聖火リレーは、6月27日から28日にかけて実施され、本市からは、大村智博士をはじめ3名の方々が、山梨県選出の聖火ランナーとして参加いたします。市内では、27日夕方、一ツ谷交差点から下宿交差点までの区間において、8名のランナーが聖火を繋ぎますので、多くの市民の皆様のご声援をいただき、オリンピックの気運を高めてまいりたいと考えております。

また、8月2日には、文田健一郎選手が「レスリング グレコローマン 60kg級」に出場いたしますので、会場でエールを送るほか、市内でもパブリックビューイングを開催し、金メダル獲得に向け、市を挙げて応援してまいります。

先日、日銀が発表した「経済・物価情勢の展望」によると、「わが国の景気は、輸出が弱^{よわ}含むなかで、製造業を中心に弱さが一段と増した状態が続いているもの

の、緩やかに回復している。」と見ており、また、日銀甲府支店による金融経済概観においても、「県内景気は、基調としては緩やかに拡大している。」とし、依然拡大傾向にあることを示したところであります。

今後も、新型コロナウイルス感染症の拡大による製造業の供給網への影響や、米中貿易摩擦、英国のEU離脱、イランなど中東地域を巡る海外経済の動向を踏まえ、経済情勢に留意する必要があると考えております。

以下、明年度の施策の展開方針につきまして、新規・主要事業の動向、補正予算を含め、その主な内容をご説明申し上げます。

始めに、防災体制の強化についてであります。

昨年台風での課題等を踏まえ、非常食や飲料水に加え、ブルーシートや避難者のプライバシーに配慮するための間仕切り段ボールなど備蓄品のさらなる充実を図るほか、上空からの被災状況を確認するために有効なドローンを購入し、迅速な情報収集に努めてまいります。

また、どのような大規模自然災害等が起きても、被害を最小限に抑え、機能不全に陥らない「強靱な地域」を作るため、国土強靱化地域計画を策定し、関係府省庁の交付金や補助金を積極的に活用するなど「安全・安心に暮らせる強いまちづくり」に尚一層取り組んでまいります。

さらに、年々増加する災害対応への出労や郷土愛護の精神で活動する、消防団員の労に報いるため、団員の報酬を増額いたします。

なお、洪水・土砂災害ハザードマップにつきましては、国及び県の浸水想定区域の見直しに伴い改訂を行っているところであり、今後、地区説明会を開催し、各戸配布する予定でありますので、地域や家庭内で被害が予想される場所や危険箇所について確認し、「自分の命は自分で守る」という意識をもち、速やかに避難行動を起こしていただきたいと考えております。

次に、子育て支援の充実についてであります。

予防接種や乳幼児健診のお知らせ機能などを備えた「子育て支援アプリ」を導入いたします。

従来の母子健康手帳に登録する情報に加え、月齢に合わせた子育て支援情報をタイムリーに配信することや、子どもの成長日記を作成できるなど、妊娠期から子育て期を通した育児サポートの充実に向けてまいります。

また、3歳児健診では子どもへの負担もなく数秒で正確性の高い検査結果を得ることが可能な「視覚検査器」を導入し、弱視の早期発見と適切な受診や治療に繋げるよう取り組んでまいります。

次に、高齢者並びに障がい者福祉の充実についてであります。

これまで、毎年秋に行ってまいりました、「福祉の日記念まつり」につきましては、明年度、武田の里ウォークやサッカーイベント等と同時開催するなど、高齢者や障がい者のみならず、全ての市民がより一層参加しやすい幅広い世代間交流の場として名称も含め、全面的に改めていく予定であります。

また、保育所等に在籍する発達障がい疑われる児童に対し、適切な支援を速やかに受けられるよう、新たに臨床心理士を派遣し、早期発見、早期療育が行える体制整備を図ってまいります。

次に、健康づくりの推進についてであります。

健康ポイント事業につきましては、これまで健康診断や市主催のスポーツイベントに参加された市民を対象に実施してまいりましたが、明年度はさらに、健康寿命の延伸に繋がる市民のウォーキング意識の高揚やポイント対象事業の充実のため、中央公園施設内を周回するコースを設定いたします。

今後も、関連イベントの充実、情報発信の強化等に努めてまいります。

次に、学校教育の充実についてであります。

これまで、市内小学校2校のモデル校を中心にICT環境の整備を進めるとともに、支援員の配置や他校との連携による交流や遠隔授業の実践などにより、授業力の向上を図ってまいりました。

明年度は、さらに国のGIGAスクール構想に基づき、高速通信ネットワーク環境の整備を行い、さらなる情報活用能力の育成に取り組んでまいります。

また、災害時に児童・生徒が帰宅できず校内で待機することを想定し、全ての小中学校に保存食などを備蓄いたします。

次に、医療体制の充実についてであります。

これまでも診療機能の一層の充実のため、医師の確保に努めてまいりましたが、この度、山梨大学のご協力により、4月から皮膚科を新設し、毎週金曜日に診察することになりました。

さらに、脳神経外科につきましても、診察日の拡大に向け、現在準備を進めているところであります。

引き続き、診療科・診療日の充実により、市民ニーズに対応した医療の提供と地域医療体制の強化を図ってまいります。

次に、スポーツ施設の整備についてであります。

市営総合運動場につきましては、昨年10月に策定いたしました「基本構想」に

に基づき、建設地の特性把握や公民連携による事業実施手法の検討などを主な内容とする「基本計画」の策定を進めているところでありますが、明年度におきましては、現況測量調査や地質調査を実施いたします。

また、地域におけるスポーツ・文化活動の拠点から有事の際の避難所まで、幅広い活用が期待されている円野屋内運動場の建設に着手してまいります。

次に、道路の整備についてであります。

市道（神山）27号線につきましては、地域住民及び観光客の通行の利便性の向上を図るため、明年度は、白沢橋から鍋山公民館の区間の拡幅に伴う、設計業務を実施する予定であります。

また、市道（旭）58号線及び市道（神山）2号線の道路改良及び舗装を継続実施するほか、大穴隧道のLED照明化を図るなど道路環境の整備を進めてまいります。

さらに、堀切橋につきましては、既設橋耐震補強・補修及び取付道路の整備を行い、明年度の完了を目指してまいります。

なお、県道甘利山公園線につきましては、地権者説明を終え、今後は、用地交渉を進めていくと伺っておりますので、早期に整備されるよう引き続き要望してまいります。

次に、自然環境の保全についてであります。

本市の豊かな自然環境や生態系の保護・保全のため、明年度は、特定外来植物であるオオキンケイギクに関する勉強会を開催し、市民と協働した駆除活動に取り組んでまいります。

また、南アルプス山系において、近年、ニホンジカによる高山植物の食害が確認されていることから、鳳凰三山及びその周辺に防護柵を設置するなどの植生保護活動にも取り組むこととし、今後、県森林総合研究所等の助言をいただくなかで、地域推進協議会や山岳関係者との協議を図りながら、事業を進めてまいります。

次に、農林業生産基盤の整備についてであります。

徳島堰につきましては、転落事故の危険性があるため、未整備箇所防止柵を設置し、用水路の安全な維持管理に努めてまいります。

また、朝穂堰^{あさほ}につきましては、改修中に白砂隧道の一部が崩落したため、追加工事を実施し、楯無堰につきましても、測量設計調査を終え、明年度から対策工事に着手するなど、県営かんがい排水事業による整備を継続し、農業用水の安定

供給を図ってまいります。

さらに、中山間地域総合整備をはじめとする県営事業につきましても、各地区の圃場整備や鳥獣害防止柵の設置など、農山村地域の活性化のため、引き続き、基盤づくりに取り組んでまいります。

次に、農林業の振興についてであります。

台風の影響などにより、今年度は止む無く中止とした、「にらさきワインフェスティバル」であります。ワインの試飲やステージライブ、ワインに合うグルメブースを出店するなど様々な趣向を凝らし、誰もが楽しめるよう明年度開催いたします。

また、ワインセミナーの開催や醸造用ぶどうの生産者支援としてぶどう棚の新設、小規模ワイナリー建設に対する助成など、地域ブランド化を推進してまいります。

次に、魅力ある観光施策の充実についてであります。

本市が有する豊かな自然や地域資源をより効果的・積極的に情報発信するとともに、交流人口の受け皿となるイベントの尚一層の充実を図ることなどを目的に、現在、産業観光課が所管する「韭崎市観光協会」を4月から一般社団法人に移行することといたしました。

引き続き、市並びに関係機関との連携を図りながら、事業の柔軟性や迅速性、新たな収益事業の創出などに努めるなかで、さらなる観光施策の充実強化と地域の活性化を推進してまいります。

次に、定住対策の促進についてであります。

定住人口の減少対策、また、住宅用地の供給を促進し良好な住環境整備を推進するため、分譲用宅地として開発を行う民間事業者及び土地所有者に対し、助成を行う支援制度を創設いたします。

また、現在、地域住民と協議を継続している合同庁舎跡地につきましても、分譲住宅用地としての整備・活用の検討を進めてまいりたいと考えております。

さらに、大村博士の生家である「螢雪寮」につきましては、これまでセミナーなどに利用されておりましたが、さらに移住希望者に田舎暮らしを体験していただくなど幅広く利活用できる施設とするため、蔵も含めたりノベーションを実施する予定であります。

大村博士の生まれ育った故郷の風景を残しつつ、交流人口の創出や移住・定住につながる施設となるよう、整備を進めてまいります。

なお、本年度は、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の最終年にあたり、「第7次総合計画」との整合性を図り、現在、国が示す新たな視点などを盛り込んだ「第2期総合戦略」の策定を進めているところであります。

地方創生は息の長い重要な課題であるため、「継続を力にする。」という姿勢で、

現行の枠組みを踏襲しつつ、引き続き、切れ目のない取組みを推進してまいります。

次に、地域間交流・国際交流の推進についてであります。

昨年6月に、チェコ共和国のメヘニツェ市長を表敬訪問した際、東京オリンピックの開催を契機とした本市への招待状をお渡ししたところ、ご快諾いただき、8月22日に来訪していただくこととなりました。

両市の交流も15年目を迎えますが、文化・スポーツ等を通じて、さらに親睦が深まるよう、8月には記念植樹や関連企画展を開催する予定でありますので、市民の皆様にも、温かな歓迎をお願いいたします。

次に、適正な職員配置と人材育成についてであります。

ここ数年、自治体の災害対策には、日常的防災業務に加え危機管理業務の充実が求められておりますので、明年度から「危機管理専門監」の配置を行います。

また、福祉課においては、ワンストップでの相談体制の充実を図るため、「福祉総合相談担当」を設置するとともに、高齢者福祉業務について、長寿介護課へ集約し、利用者の利便性や福祉サービスの向上を図り、さらに、子育て支援担当から新たに保育担当として分けることで、子育て世帯に対してよりきめ細やかなサービスの提供に努めてまいります。

今後も、多種多様なニーズや課題に柔軟性と迅速さを持って対応できる業務執行体制を構築してまいります。

これら施策の具体化のため、今議会におきまして、ご審議をお願いいたします案件は、これまで申し述べましたことを踏まえ、

予算案件	25件
条例案件	23件
その他案件	2件

であります。

以下、令和2年度当初予算案の概要について、ご説明申し上げます。

明年度の予算編成にあたりましては、厳しい財政状況下ではありますが、「第7次総合計画」や、策定中の「第2期葦崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略」も踏まえ、予算編成を行ったところであります。

その結果、一般会計当初予算額は、前年度当初予算に比べ、1.0%増の、142億2,200万円といたしました。

このうち、歳入についてであります。国の明年度の経済見通しでは、名目成長率は2.1%、実質成長率は1.4%程度の伸びを見込んでおりますが、本市においては、市税を対前年4.0%減となる56億4,239万6千円を計上し、補助費

等の減により、国庫支出金を4.6%の減とする一方、地方譲与税等は、新たに法人事業税交付金が交付されることから10.6%の増、寄附金は、ふるさと応援寄附金の増加により、88.4%の増としております。

また、地方交付税は、本年度と明年度の法人市民税の収入見込みにより、対前年比40.6%増の22億4,000万円、地方交付税の振替財源である臨時財政対策債は、76.7%増の4億4,700万円を計上したところであります。

なお、市債につきましては、臨時財政対策債の増と普通建設事業費の減により、対前年10.4%の増となる11億8,510万円を計上しております。

次に、歳出につきましては、会計年度任用職員への移行により、人件費に17.5%増の21億141万5千円、上ノ山・穂坂地区工業団地に創業した企業に対する企業立地助成金や、下水道事業等の企業会計化により、補助費等に34.3%増の28億7,385万7千円を計上しております。公債費は、地域総合整備資金貸付事業債や臨時財政対策債の償還が始まることから、8.2%増の15億9,337万円を計上しております。

また、物件費は、会計年度任用職員への移行により、対前年9.7%減の24億1,324万6千円、普通建設事業費は、堀切橋拡幅整備事業費の減により、4.5%減の17億7,989万5千円を計上しております。

なお、特別会計への繰出金につきましては、下水道事業等の企業会計化により、対前年38.2%減の9億9,735万7千円としたところであります。

次に、特別会計であります。

簡易水道特別会計、下水道事業特別会計の企業会計化により、特別会計は国民健康保険特別会計ほか10会計となり、19.5%減の総額60億9,402万1千円の予算を計上しております。

また、企業会計につきましては、市立病院事業会計、水道事業会計に、簡易水道事業会計、下水道事業会計を加え4会計となり、合わせて、60億5,677万2千円を見込んでおります。

続きまして、令和元年度補正予算案についてであります。

一般会計につきましては、1億638万3千円を増額し、現計予算額は、152億481万7千円としております。

その主な内容につきましては、ご説明申し上げます。

まず、歳入につきましては、市内主要企業が予定申告すべき法人の要件から外れ、本年度の予定納付が無くなったため、市税を4億6,439万6千円減額しております。

また、各種事業費の確定見込みによる減と国の補正予算採択により、国庫支出金を46万2千円減額する一方、県支出金を1,809万5千円増額補正しております。

なお、寄附金につきましては、ふるさと応援寄附金の増加見込みにより、6,702万2千円、市債につきましては、市税の減収を補填する減収補てん債を4億円追加計上するなど、4億8,960万円を増額補正しております。

次に、歳出予算についてであります。

主なるものについてであります。ふるさと応援寄附金の増加により、ふるさと納税事業費に3,105万3千円、財政調整基金積立金に3,046万9千円追加計上し、過年度の生活保護施行事業費の確定により、国庫支出金等返還金を5,029万6千円増額補正しております。

また、事業費の確定見込みにより、堀切橋拡幅整備事業費を5,230万5千円、市道神山39号線道路整備事業費を2,066万4千円減額補正しております。

なお、国の補正予算採択により、^{けんえいはちたたい}県営畑地帯総合土地改良事業費や県営農業競争力強化整備事業費などに追加計上するほか、小中学校のICT環境整備事業費をあわせて7,287万6千円、大村家住宅リノベーション事業費を1億5,850万円増額補正しております。

次に、特別会計、企業会計についてであります。国民健康保険特別会計は事業費の確定により、1億367万円を増額補正しております。他の会計は事業費の確定、精算に伴う減額補正であり、主なるものは、下水道事業特別会計、

8,400万8千円、介護保険特別会計、2億1,704万9千円、水道事業会計、3,310万3千円を減額するものであります。

なお、その他の案件につきましては、いずれもその末尾に提案理由を付記してありますので、よろしくご審議の上、ご議決あらんことをお願い申し上げます。

今後とも、国、県の動向を見極めながら健全な財政運営に努め、市民目線の活力あふれるまちづくりに全力で取り組んでまいり所存でありますので、より一層のご理解とご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。私の所信といたします。

令和2年2月27日

葦崎市長 内藤 久夫